

広島大学病院に救急救命士5人



搬送された患者さんに心電計や血圧計を装着する

チームの一員として救急患者さんを守る



医師と連絡を取り、患者さんの処置に必要な器具をそろえる



患者さんのデータを確認



広島大学病院に救急救命士5人 チームの一員として救急患者を守る

初期対応し、医師たちをサポート

広島大学病院は今年度、初めて救急救命士5人を採用しました。救急救命士は、高度救命救急センターを拠点に、主に重いけがや病気にかかった患者さんの初期対応や、災害や事故現場対応のほか、医師や看護師のサポート、広島都市圏の拠点病院との連携などに取り組みます。救急患者さんに対するチーム医療の一員として、患者さんにより良い医療を提供する一翼を担います。

別の病院から移籍した救急救命士が2人、新採用が3人です。消防機関で勤務している救急救命士と全く同じ国家資格を持ち、救急患者さんに対して、医師の指示により、機材を使った処置や薬剤投与などの救命措置を行います。まずは365日対応とし、2交代で24時間対応とすることも視野に入れています。高度救命救急センターの板井純治医師は「救急患者さんの命を救うため、果たしていただく役割は大きい」と期待します。



消防からの電話を受け、搬送される患者さんのデータを記録する

救命率向上 後遺症軽減を

広島大学病院は、生命に関わる重症患者さんを24時間受け入れる3次救急を中心に、入院が必要な患者さんに対応する2次救急患者を日々受け入れています。救急患者さんの救命率向上と後遺症の軽減には迅速な対応が不可欠です。救急救命士は、消防署の救急隊などから救急患者さんの受け入れの連絡が届いたら、患者の脈拍、血圧、呼吸、意識レベルなど患者さんの状態を聞き取り、病院到着後にいち早く診療を始められるよう、医師や看護師に連絡します。病床の空き具合や、専門医の待機状況も把握。医師や看護師は、それぞれの職務に集中できるようにします。



医師の指示による患者さんの静脈路確保も役割の一つ

高度救命救急センターの森下喬道看護師は「消防からの入電対応や、搬送された患者さんの状況把握などをしていただくことで、看護師は患者や家族のケアに集中できる。家族からすみやかに既往歴やアレルギー、使っている薬などを聞き取れば、早い治療、処置にもつなげられる。救急救命士ならではの視点も参考になる」と歓迎します。

協力病院と受け入れ調整も

救急救命士は、入院が必要な救急患者さんがおられるのに、病床が足りないケースでは、受け入れが可能な近隣の協力病院との調整役も担います。協力病院の病床に空きがあるものの、人員や設備などの問題で、患者さんの初期対応や検査などが難しい場合もあります。広島大学病院で初期対応し、協力病院で入院するケース



もこれから増えていくとみられますが、病院間の連携により、地域医療を守る調整も大きな役割になります。また、生活状況などにより帰宅が難しい患者さんの入院先の調整も進めます。

広島大学病院には、地震や豪雨被害などが発生した現場に駆けつける災害医療派遣チーム(DMAT)隊員の医師や看護師、医療関係職員がいます。救急救命士2人も、救急救命士では広島県で初のDMAT隊員です。救急救命士はDMATカーを運転して現地向かうほか、資器材の調整や現地の医療機関の対応状況などの情報収集にも当たる予定です。避難所の開設や災害医療など専門知識を生かした支援、防災講習の講師などでも力を発揮しそうです。



医師、看護師はじめ多職種のスタッフと患者さんの状態について情報共有する

ドクターカーや高規格車を計画

広島大学病院では、医師や看護師が現場に直接出動する病院救急車(ドクターカー)システムを稼働させる予定で、さらに2025年度にはECMO患者にも対応する高規格の救急自動車を配備する計画で、装備や車両のサイズなど検討を進めています。救急救命士は、これらを運転して医師や看護師とともに事故や災害現場に駆け付ける役割を果たします。また、初期対応後の救急患者さんや集中治療後の患者さんを協力病院に搬送する際にも活用する方針です。

重症患者さんの救命や、地域医療を守るために奮闘する広島大学病院の救急救命士の活躍を応援してください。



DMATカー前に並ぶ救急救命士の5人

救急救命士の話



多職種チーム医療にやりがい

吉田 瑠奈 さん
(資格取得1年目)

患者さんが搬送されてきたら、まず緊急性を即座に判断し、病態に応じて必要な検査を先々考えます。一人の患者さんを救うために医師や看護師など多職種で取り組むチーム医療にやりがいを感じます。保育園で保育士をしながら3年かけて資格を取得しました。子どもたちに何かあったとき、知識があるだけでも安心して働けると思ったのがきっかけです。病児保育、院内保育など経験を生かせる場も模索しています。



地域住民に身近な大学病院に

新谷 貴大 さん
(資格取得9年目)

診療の質の向上と広島県の救急医療の充実を図るのが目標です。資格自体は消防署の救急救命士と全く同じです。しかし業務は全く異なり、今後さらなる業務態勢の構築が不可欠です。病院では医師や看護師をはじめ、他の医療スタッフとの連携や役割分担により、救急患者さんにとってベストな医療を提供することに尽力したいです。地域住民の方々に、一次救命処置の講習会を開くなど、より身近な大学病院を目指します。

ニュースアップ

広島大学病院は「臨床研究中核病院」に承認されました

広島大学病院は、日本発の革新的な医薬品や医療機器、医療技術の開発に必要な臨床研究・治験を推進するため、国際水準の臨床研究や医師主導治験の中心的役割を担う「臨床研究中核病院」として厚生労働大臣に承認されました。患者さんにとってより安全で信頼できる臨床研究・治験などを実施することで、治療の選択肢を増やし、医療の向上に貢献していきます。

全国で16施設目となる臨床研究中核病院として5月30日付けで承認されました。これまでの医師主導治験や論文数、臨床研究に携わる人員などが承認要件を満たしました。

当院の強みである軟骨の再生医療や希少疾患に対する新たな治療手段として期待される核酸医薬品などの開発と実用化を進めるほか、他の医療機関への研究支援や共同試験も進めていきます。質の高い臨床研究・治験に取り組む人材や、地域の医療・研究を支える次世代人材も育成しながら、臨床研究・治験の実施状況を分かりやすく公表し、患者さんからの相談受け付けもこれまで以上に手厚くしていく方針です。

当院として質の高い臨床研究や治験を推進し、病院の理念である「全人的医療の実践」「優れた医療人の育成」「新しい医療の探求」をより進めるべく、職員一同、一丸となって取り組んでまいります。



広島県初の先進的内視鏡治療を導入 良性・悪性食道疾患へ3つの新たなアプローチ

広島大学病院は、良性・悪性食道疾患に対する新たな3つの治療法を導入しました。患者さんの負担が少なくいずれも保険が適用されます。

2つは良性疾患に対する治療で、食べ物の胃の入り口の通過が難しい患者さんへの「内視鏡下筋層切開術(POEM)」と、内服薬では胸やけなどの症状が改善しない患者さんへの「内視鏡的逆流防止粘膜切除術」です。もう1つは悪性腫瘍に対し、食道がんの放射線治療後に残存または再発した病変に対する治療として、「光線力学療法(Photodynamic Therapy, PDT)」をそれぞれ広島県内で初めて導入しました。

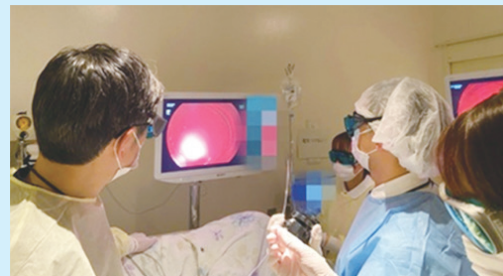
POEMは、食物をのどから胃に運ぶ際の正常な食道の蠕動がなくなり、食道の出口(胃の入口)にある筋肉が締まったままゆるまないために食物の通過が障害される疾患「食道アカシア」に対して施術します。内視鏡を用いて異常な筋肉を切開することで、食物の通過を改善します。

内視鏡的逆流防止粘膜切除術は、内服薬でも胸やけなどの症状が改善しない胃食道逆流症(逆流性食道炎を含む)の患者さんや、一旦改善してもやめると再発し、長期の内服が必要な患者さんが対象となります。内視鏡を用いて胃の入り口の粘膜を切除し、人工的に胃潰瘍を作成します。潰瘍の治癒過程で粘膜が引き寄せられることにより、胃の入り口が狭くなり、胃酸の逆流を抑制することが可能になります。

「高解像度内圧測定検査」と「24時間pHモニタリング検査」を実施するための機器を、広島県で初めて導入したことにより、より正確な診断と適切な治療が可能となりました。

PDTは、光増感剤を投与した後特定の波長の光を照射し、活性酸素を発生させてがん細胞を破壊する治療法です。放射線治療後の再発や外科手術が困難な患者さんに対して新たな治療の選択肢となり、先行例では治療の効果を示す奏効率が8割以上と高率です。

消化器内科の岡志郎教授は「いずれも1時間以内で治療は終わり、入院も1週間前後です。施術後は服薬もしなくてよく、経済的な負担も軽減できます」と話しています。



PDTの治療の様子

被爆者と被爆2世のゲノム解析研究で協力協定 広島大学病院と放影研

広島大学病院は4月24日、公益財団法人放射線影響研究所(広島市南区、放影研)が実施を計画している原爆被爆者を含む両親とその子ども(被爆2世)を対象にしたゲノム(全遺伝情報)の解析調査に関する研究協力協定を結びました。大学病院は調査参加者のうち必要な方に対して、適切な遺伝カウンセリングと医療の提供を支援します。

ゲノム解析調査は、原爆放射線による遺伝的影響が被爆者の子どもに引き継がれるかどうかを明らかにするため実施するものです。放影研は、調査の過程で健康管理に役立つ遺伝情報が判明した場合、本人の希望によりその遺伝情報をご本人に説明し、広島大学病院への受診を勧めます。広島大学病院は、遺伝カウンセリングや希望に応じて定期検診や血縁者診断などを行い、必要があれば医療支援します。

締結式では、広島大学病院の安達伸生病院長と、放影研の神谷研二理事長が協定書に署名しました。神谷理事長は「被爆者や被爆2世の方への大きな安心材料となり、力強い支援につながる」と期待を表明しました。安達病院長は「被爆とは無関係だが健康上、有用な情報が見つかったケースも含め、遺伝カウンセリングから治療につながる如果能够あれば病院としてしっかり対応させていただく」と述べました。

放影研は原爆の放射線による健康への影響について研究する日米両政府の共同運営機関です。現在、2027年1月竣工を目指して広島研究所の新施設を広島大学病院がある広島大学霞キャンパスに建設中です。



協定書に署名し、握手する安達病院長(左)と神谷理事長



看護師 プラス

看護師の業務が拡大しています。「専門看護師」「認定看護師」は高度化・専門化が進む医療現場でレベルの高い看護を実践できる看護師に認められた資格です。いずれも日本看護協会が認定しています。

専門看護師は、看護師として5年以上の実践経験を持ち、看護系大学院で修士課程を修了して必要な単位を取得したのちに、専門看護師認定審査に合格することで取得できる資格で、13分野。認定看護師は、看護師として5年以上の実践経験を持ち、日本看護協会が定める600時間以上の認定看護師教育を修め、認定看護師認定審査に合格することで取得できる資格で、21分野です。それぞれの資格を持った看護師がどんな活動をしているのか、紹介していきます。



[専門看護師]
がん看護
原岡 恵子

01 どんな仕事？

がん医療においては、病名告知、治療選択、がんや治療による症状、療養場所の選択など、患者さんやご家族は様々な課題に直面することが多い現状があります。そうした課題に向き合う患者さんやご家族が、自分らしい選択ができ安心して生活が送れるよう、専門的な知識とともに、多職種と連携しながら支援をしています。患者さんやご家族に直接関わるだけでなく、スタッフからの相談に対応したり、研修や勉強会を行うなど、がん看護の質の向上にも努めています。



02 きっかけは？

高校・大学時代にホスピスの診療所でボランティアをした経験から、がん看護に関わる専門職を志しました。臨床の現場では、さまざまな苦痛を抱える患者さんやご家族と向き合う中で対応に悩むことも多く、もっと深く学びたいという思いから大学院に進学しました。

03 将来へ向けて

がん患者さんやご家族の意思決定を支え、安心して生活を送れるよう支援しています。入院中から退院後まで切れ目のない支援を実現するため、地域との連携にも力を入れていきます。また、スタッフと共に学び合える環境づくりや、院外でがん看護に携わる看護師への教育的支援を通じて、がん看護の質の向上にも努めています。



[認定看護師]
糖尿病看護
大石 愛子

01 どんな仕事？

糖尿病を持つ患者さんがご自宅で病気と上手に付き合いながら健康を維持し、安心して生活できるように支援しています。糖尿病の治療には、食事や運動、薬物療法があり、生活習慣に大きく関わります。患者さんの思いに寄り添いながら、身体的・心理的・社会的な側面をアセスメントし、その人らしく生活できる方法を多職種で共有しながら検討しています。また、院内の糖尿病教室、広島県糖尿病協会での活動を通して、糖尿病に関する知識の普及も行っています。



02 きっかけは？

看護師になって8年目に、広島県糖尿病療養指導士の資格を取得しました。その際、自分の知識不足を実感しました。より多くの知識、ケア方法などを知ること、様々な背景を持つ患者さん一人ひとりに寄り添った糖尿病看護を提供したいと思い、糖尿病看護認定看護師を目指しました。

03 将来へ向けて

糖尿病治療は日々進化しており、新たな薬剤や持続グルコースモニタリング（CGM）を活用した血糖管理など、様々な選択ができるようになっていきます。患者さんの生活に合わせた治療の選択や合併症予防が行えるように支援していきたいです。地域で生活する患者さんにも継続的に支援ができるように、看護外来の開設に向けて準備を進めています。



診療科最前線

「小児歯科」

(病棟医長:岩本優子助教)
(診療科長:野村良太教授)



▶ 診療科の特徴

子どもの口腔に対する保護者の関心は一層高まってきており、少子化が続いているにもかかわらず、小児歯科に対するニーズは増加してきているように感じます。小児歯科では、生後0日から概ね18歳に至るまでの小児の口腔に関すること全般に対応しています。外来診療棟3階の小児科に隣接した小児エリアで主に診療を行っており、さまざまな疾患に対し、医科にて外来・入院治療中の小児の口腔の健康をサポートしていることも特徴的です。

▶ 得意分野

むし歯ひとつとっても、全身疾患等の状態や発達の問題、恐怖心などによって、治療が進めにくいことがあります。当院小児歯科では、行動変容法といった専門技法をはじめ、笑気吸入鎮静法や、時には全身麻酔を使用するなどして、早期に問題を解決することを目指します。その後は、それぞれの状況に応じて、定期的なメインテナンスを継続し、成長に寄り添いながら新たな疾病を予防することに努めています。

▶ 地域とのつながり

毎年、歯と口の健康週間には「親子のお口の健康教室」イベントを開催し、また、むし歯や歯周病リスクの高い小児1型糖尿病患者のサマーキャンプや血友病包括外来、児童相談所

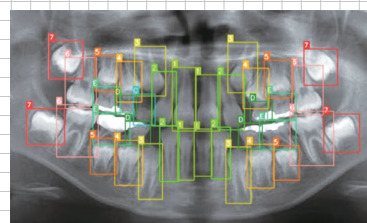


親子のお口の健康教室

の一時保護施設等において、歯科健診と歯科保健指導を実施するなど、地域での予防啓発活動に積極的に参加しています。留学生等と協力し、カンボジア等のむし歯の多い国での歯科医療支援活動も続けています。

▶ 最新のトピックス

小児のお口に関する様々な研究に取り組んでいます。むし歯の原因菌であるミュータンス菌の働きを抑制する効果のある物質を探索しています。また、ミュータンス菌がIgA腎症等全身疾患と関わりが深いことを見出しました。近年問題になっている「お口ばかん」等の小児の口腔機能発達不全症の解決に向けて「哺乳」や「食べる」機能に関する研究の他、人工知能(AI)を利用して一般歯科医の診断を手助けするシステムの研究開発を実施しています。



小児のレントゲン画像からAIが乳歯と永久歯を検出

催しのご案内

(2025年7月~10月)

世界肝炎デーイベントのお知らせ

7月29日(火) 13:00~15:00 (消化器内科×歯科)

- ・無料肝炎ウイルス検査の実施
- ・口腔内の細菌を顕微鏡で観察

会場: 広島大学病院診療棟3階イベントホール

肝臓病教室

「肝がんについて(仮)」講師: 消化器内科 医師 藤野初江
「薬の副作用について(仮)」講師: 薬剤部 薬剤師 滝沢大吾

10月20日(月) 15:00~16:00

会場: 臨床管理棟3階3・4会議室
申込: 不要(参加費無料)
問い合わせ: 肝疾患相談室

☎082-257-1541 (10:00~12:00 13:00~16:00)



がん治療を支える患者サロン

7月17日(木) 13:30~14:30 甲状腺癌の治療の進歩

会場: 臨床管理棟3階 3F4会議室/zoom 講師: 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 医師 築家伸幸

9月18日(木) 13:30~14:30 ゲノムでわかる、がんのリスクと治療法
~がんゲノム医療と遺伝性腫瘍の最新情報~

会場: 臨床管理棟3階 3F2会議室/zoom 講師: 遺伝子診療科 医師 檜井孝夫

10月16日(木) 13:30~14:30 自分らしくがん付き合っていくために
~がんストレス対処法について~

会場: 臨床管理棟3階 3F2会議室/zoom 講師: 公認心理師 新本かの子

患者おしゃべり会

会場: いずれも診療棟2階 健康情報プラザ

7月22日(火) 9月30日(火) 13:30~14:30

申し込み・問い合わせ: がん相談支援センター ☎082-257-1525